

令和7年度 第3回 まちで暮らすネットワーク～地域生活支援部会～ 定例会 議事録	
日 時	令和7年9月11日（木）13：30～15：30
開催場所	保土ケ谷区役所2F 202会議室
出席者 （敬称略）	【参加者】ユーススタイルケア、リビットはうす横浜、銀河和田町、いわまワークス、恵和めぐみ、反町福祉機器センター、左近山特別支援学校、エターナル上星川、西区基幹相談ねくさす、ほどがや地活ゆめ、ゆめっこくらぶ、西部地域療育センター、夢21ホーム、ポート葦、実習生4名（区役所3名、生活SC1名） 【事務局】夢21、十愛病院、区高齢障害、基幹相談、恵和青年寮、ほどがや希望の家、生活支援センター（※部会長） 【事例提供】はるの家
欠席者	区高齢・障害支援課1名、西区基幹1名
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ 非公開
議 題	（1）本日の流れ 13:30～13:40 ※部会長 ・ 令和7年度第3回の「まちで暮らすネットワーク 地域生活支援部会」 【本日のテーマ】 ・ 本日は、知的障害と身体障害の重複障害がある児童のケースをもとに皆さんと一緒にどのような支援が必要か、このお子さんの将来がどんなものになったらいいか、皆さんと一緒に話し合えればと思います。 事例検討という形ではなく、意見交換会という形にしますので、みなさん、お気軽に意見交換やアイデア出しをお願いします。 【自己紹介】 ・ さて最初に、初めて「まちで暮らすネットワーク」に参加された方がいらしたら、自己紹介をお願いします。 （初めて参加者） 訪問看護ステーション1名、西部療育センター1名、西区基幹相談支援センター3名、区役所の学生実習3名、生活支援センター学生実習1名 （2）意見交換会の説明&事例紹介 13:40～14:00（20分）※部会長 【事例提供者 紹介】 ・ 今回の事例ですが、岩間町にある<u>児童発達支援事業所「はるの家」</u>に提供していただきます。知的と身障の障害児の事例で、将来どのように地域で支えられるかを考えている事例です。最後に、事例提供者から「この事例における“支援者”としての思い」「SRさんが将来どんな生活を送ってほしいと思っているか」をお話してください。 「はるの家」 「はるの家」は児童発達支援と放課後等デイサービスの事業を実施しているが、看護師を多く配置しているため医療ケアが必要なお子さんの利用が必然的に多くなっている。と言っても、重い障害のお子さんばかりかと言うと、そんなことは

ない。

今回の事例は、以前利用していて週 5 の通所に移行し今現在契約はしていないが、夏休みの期間、通所が休みで利用できる社会資源がないため、児童発達支援の利用者枠を使って預かった事例。夜眠れない傾向があり、母親の疲れも見て取れた。ご本人は利用時から成長を感じられた。

課題) 就学に向けて、放デイの利用を検討しているが、重心の事業所では、歩き動き始めるようになったので、受け入れが継続できないことが今後見込まれる。発作時、座薬の挿入の対応が可能な、事業所が見つかるか。

【事例提供者が、ワークで話しあってほしいこと】

- ① 本児にとって安心できる場とは～就学に向けて～
- ② 地域の中で家族の介護負担を軽くするために、何が必要でどんな手立てを考えたらいいか。

(3) 質疑応答 14:00～14:10 (10分) ※部会長

- *親の関わりはどうか
- *親は相談できるタイプか
- *送迎は事業所か、家庭か
- *短期入所利用の経験はあるか
- *両親の希望はどうか

(4) 意見交換会 グループワーク 14:10～15:10 (60分)

- *ケースから感じたことを共有
- *こんなことが出来るのではないか アイデア出し
- *地域移行についての課題や疑問など …それぞれの立場から自由に話す
- *紙と付箋紙があるので、気づきやアイデアを書いて貼る。
- *グループごとに、記録者・発表者を決める。

【ファシリ】

1G) 保土ヶ谷・基幹、2G) 十愛病院、3G) 西・基幹、4G) 生活 SC

(5) 情報共有 15:10～15:22 (3分×4=12分)

- ・グループで話した内容を、1 グループ 3 分程度で全体共有した。

【1G】

- ① 放デイは場所が不慣れで、学校と同時期にスタートは好ましくないのではない

か。可能なら、事前に放デイスタートできるといいかも。

- ② 精神科の訪看利用で健康確保は重要。両親を支える資源。家庭内の役割分担・家事分担・子育て分担等も必要ではないか。

【2G】

- ① 両親の相談先、相互理解を深めるような支援が必要と感じた。

地域では、先輩の母（父）親との交流ができる場が望まれる。

- ② 医ケアに対応できる放課後デイは少ないが、家族がスタッフに任せられるかどうか。救急車など、緊急時の取りきめをしておくのが重要。情報を持っている計画や基幹相談と通所先の連携が重要ではないか。

【3G】

- ① 親の父親を支える資源も必要と感じた。

- ② 放デイで安定するまでは、訪看と地活ゆめが関わることをできる。

【4G】

- ① 母親のほっとできる時間確保を模索、支援者から提案してもいいのでは。相互理解できそうな親を、支援者がマッチングできるといいのでは。父親の関わり、役割が大切なので、提案できると望ましい。

- ② ショートのレスパイトも提案したいが、現在利用している自宅の訪問サービスも重要。学校の見学等準備も考えられる。

(6) 事例提供者より一言 15:22～15:27 (5分)

- ・親の心配事をどうケアできるかと、学校は訪問看護師が技術指導できる制度があるが、放デイには制度的に技術指導はできないところを、何らか「はるの家」で関われないかと考えている。
- ・今回のワークを聞いて、親と向き合う時間も作りたいとも考えた
- ・将来に向けて、本人が本人らしく楽しく過ごせることが一番と考えているので、関わる人が増えて行けるように支えていきたい。

(7) まとめ、情報共有 15:27～15:30 (3分) ※部会長

- ・西区生活創造空間で10月4日（土）祭り
- ・10月7日「自立支援協議会 全体会」 参加申込呼びかけ

【次回予定】 ※部会長より

- ・11月13日（木）13:30～15:30「まちで暮らすネットワーク 地域生活支援部会」
テーマ： 短期入所事業所、地域活動ホームとの情報交換会
会場： 保土ヶ谷区役所 地下会議室

	※今年度の部会の活動予定は、令和 7 年度の部会計画書や、自立協ホームページにも google の会議カレンダーがあります。ご参照ください。
--	--

保土ヶ谷区自立支援協議会の HP QR コード（こちらからも入れます）

